

「東山道武蔵路」発見か!? 「古海道東遺跡」の発掘調査

下広谷地区の古海道東遺跡の発掘調査で、幅約一メートル、長さ約十五メートルの溝が発見されました。この溝は、さらに調査した区域の外へ南北方向に延びていて、古代の官道「東山道武蔵路」の側溝である可能性が高いと考えられます。

古代の律令国家は、使者の往来や軍用のため都と地方を結ぶ道路を整備しました。東山道は、平城京（現在の奈良市）から日本列島の内陸側を通って東に向かい、現在の秋田県・岩手県へ至る幹線道路です。このうち、武蔵国の国府（現在の東京都府中市）と上野国（現在の群馬県）を結んでいた道路が、「東山道武蔵路」です。県内では東山道武蔵路の遺構が、所沢市と吉見町で見られています。同遺跡は、この二か所の間に位置しているため、東山道武蔵路が付近を通過していたと推定されてきました。



底に「入厨」と書かれた須恵器

また、住居跡からは、「入厨」と墨書された須恵器が出土しました。この土器は書かれた文字から、現在の上戸新町周辺の霞ヶ関遺跡に置かれていた古代の入間郡役所の厨房で使われていたと考えられます。これらの出土品から、古海道東遺跡には古代の入間郡役所の出先機関が存在していたようです。ここに公的な機関が置かれていたという点も、近くを東山道武蔵路が通っていたことの裏付けとなります。

姉妹都市から、こんにちは!



セーレム市/ステファニー・ウィルトンさん (22歳)

ウィラメット大学を卒業して、8月にセーレムから川越に来ました。大学では、日本の言語や歴史などを研究していました。セーレムでは、私が高校生のころにできた「リバーフロントパーク」を散歩するのが好きでした。

現在、市内の中学校で英語を教えています。生徒は明るく親切で、生活に必要な情報などを教えてくれます。

実は、母と祖父が「セーレム川越姉妹都市委員会」で、両市交流の手伝いをしています。先日、その一環として祖父が川越にやって来たんですよ。

*外国籍市民の皆さんを対象にしたお知らせは14ページ、催しは15ページ・20ページ、相談は26ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

先日、岡山県に行く機会があり、倉敷市内に宿泊しました。あまり時間のない日程の合間に、有名な美観地区を歩きました。美観地区は川越の蔵造りの町並み同様、重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。江戸時代、物資の集散地だったそうで、倉敷川を挟んで両岸に重厚な土蔵などが並んでいます。川越の蔵造りは黒を基調としたものが多いですが、倉敷の蔵は白が基調になっています▶訪れた時間は、午前8時30分を過ぎたころ。あまり人がいないかと思ったのですが、すでに多くの観光客の皆さんが散策を楽しんでいました。比較的日帰り観光で訪れる方の多い川越では、この時間帯から歩いている観光客はあまり見かけません▶日帰りだけでなく、宿泊をして川越を楽しんでもらう。今後の川越観光の課題かもしれません。